

令和5年度大学生等ふるさと産品給付事業報告書

養父市 市民生活部
やぶぐらし・地方創生課

はじめに

当課は養父市出身の大学生等を対象に「令和5年度大学生等ふるさと産品給付事業」を実施し、令和5年9月16日から令和6年1月31日までの間に申請のあった学生に対し、養父市地域ブランド「やぶの太鼓判」認定産品の詰め合わせを給付した。

申請者にはその際、送付先住所等の基本事項入力と養父市行政に係るアンケートへの回答を依頼した。当報告はこれらの回答結果をもとに作成したものである。

事業概要

- 期間 令和5年9月16日～令和6年1月31日
- 対象 養父市出身の大学生等
- 給付品 養父市地域ブランド「やぶの太鼓判」認定産品

- ・温石米3kg2袋
- ・鮎のささやき3本入り
- ・牛すじ山椒カレー1箱
- ・山椒炊き込みご飯の素1箱
- ・たまねぎドレッシング1本
- ・但馬天然水2本

- 意識調査（アンケート）の実施
- ふるさと産品給付後の事後アンケートの実施
- 申請があった大学生等へ情報発信 3回
- 紙面掲載 広報やぶ9・12月号、読売新聞（令和5年10月27日）

備考：広報やぶ掲載内容


9月号掲載内容

＼ 養父市の味、届けます ／
**大学生等
ふるさと産品給付事業**

問 やぶぐらし・地方創生課
(☎ 662-3172)

大学等で学ぶ学生を対象に、養父市産の米や地域ブランド「やぶの太鼓判」認定品などの養父市産品を送り、支援します。

給付には要件がありますので、市ホームページを確認し、学生本人等がオンラインで申請してください。



市ホームページ


12月号掲載内容

**大学生等ふるさと産品
給付事業
申請期限を延長します**

大学生等に養父市地域ブランド「やぶの太鼓判」登録品を送る「大学生等ふるさと産品給付事業」の申請期限を1月31日まで延長します。

申請がまだの方は、お早めに申請をお願いします。

問 やぶぐらし
・地方創生課
(☎ 662-3172)



市ホームページ

報告書目次

1. 意識調査アンケート実施結果

- 1-1. 総申請者数
- 1-2. 申請者の性別
- 1-3. 申請者の現住所（市町村別・都道府県別）
- 1-4. 本事業を知った手段
- 1-5. 将来養父市に住もうと思うか
 - 1-5-1. 将来養父市に住もうと思っていない理由
 - 1-5-2. 将来養父市に住もうと思っている理由
- 1-6. 希望職種
- 1-7. 養父市の魅力
- 1-8. 市政情報の入手手段で活用している媒体
- 1-9. 扶養者（保護者）や後輩・地域の方へのメッセージ
- 1-10. 養父市のまちづくり・市政に関する学生からの意見

2. ふるさと産品給付事後評価アンケート実施結果

- 2-1. 受け取り日時選択制の導入に対する反応
- 2-2. 産品への感想
- 2-3. 当事業への総合的な評価

3. 申請があった大学生等への情報発信

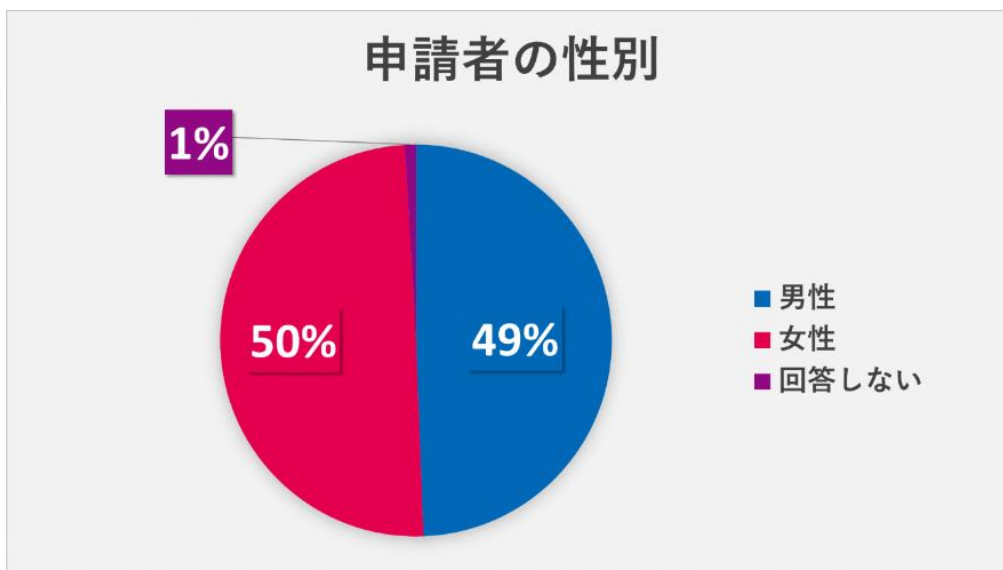
- 3-1. 発信内容

1. 意識調査アンケート実施結果

1-1. 総申請者数

申請受付期間である令和5年9月16日～令和6年1月31日の期間中で、延べ**328名**からの申請があった。昨年度の総数は307名であり、**昨年度比で21名の増加**となった。

1-2. 申請者の性別

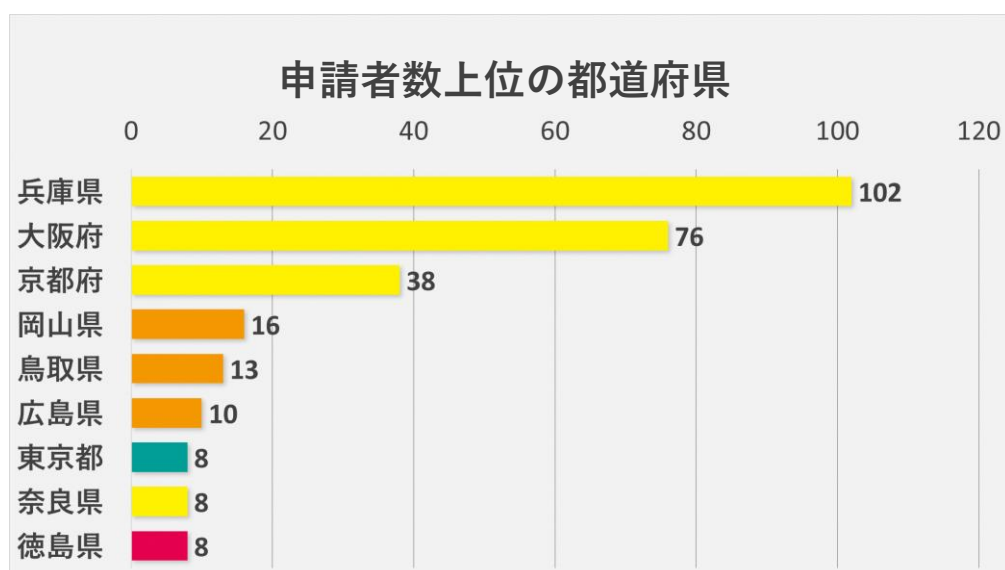


1-3. 申請者の現住所（地方別・都道府県別）

47都道府県からの選択制で実施。地方別でみると、最多の申請があったのは兵庫県の属する近畿地方であったが、全ての地方から申請があった。中には養父市から遠く離れた地方に進学し、帰省が難しい学生もいる。したがって当事業は、産品を給付し大学生の生活を応援するだけでなく、養父市の魅力を再び感じてもらうことで、ふるさとと学生がつながる機会として意義あるものだと考える。グラフは次ページに記載している。



続いて都道府県別でみると、地元・兵庫県からの申請が102名と最多であったほか兵庫県に隣接する近畿地方からの申請が多くあった。そのほか北は北海道から3名、青森県から1名の申請、南は鹿児島県から2名・沖縄県から1名の申請があり、広い地域へ進学したことがうかがえる。

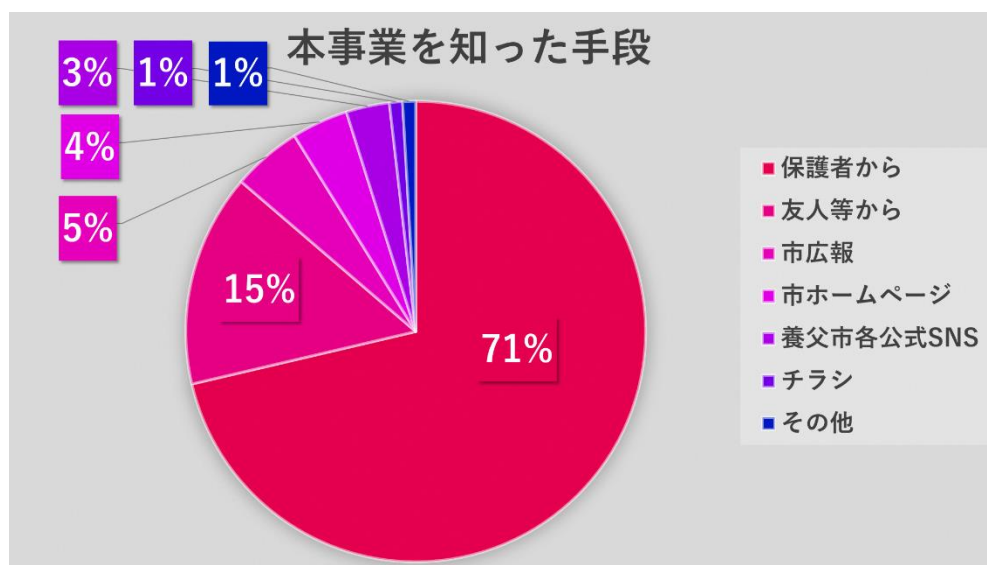


1 - 4. 本事業を知った手段

図の選択肢から1つ選択制で実施。保護者から知った学生が71%（234名）を占めた。次いで友人等から知った学生が15%（49名）であった。

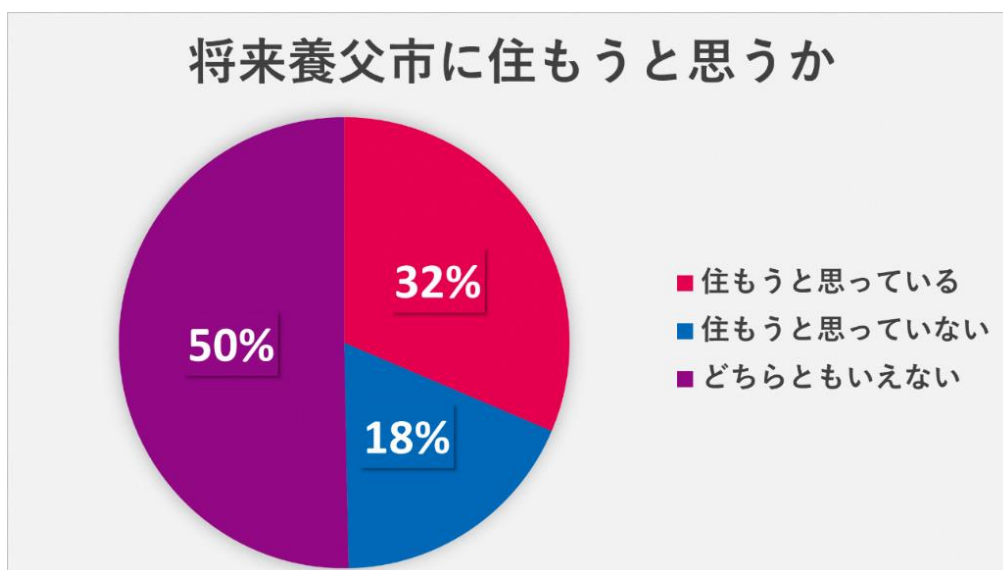
その他、広報やぶからが5%（16名）、市ホームページからが4%（13名）、SNSからが3%（10名）、チラシからおよびその他手段が1%ずつ（各3名）であった。

今年度はチラシを作成し、公式 LINE 上でも情報を発信するなどしたが、やはり保護者・友人から知る学生が多いことがうかがえる。



1 - 5. 将来養父市に住もうと思うか

「住もうと思っている」「住もうとっていない」「どちらともいえない」からの選択制で実施。結果、「住もうと思っている」が32%（103名）、「住もうとっていない」が18%（60名）「どちらともいえない」が50%（165名）であった。



1-5-1：将来養父市に住もうと思っていない理由

上記の質問にて、「**住もうと思っていない**」と回答した 60 名を対象に自由記述式で実施。最も多かったのは「**就職先がない**」「**希望する職種がない**」「**都会で就職する予定だから**」といった**就職に関する理由**で、全体の 70% 近くを占めた。なお、「**希望する職種がない**」という声は、希望する職種に「**研究職（電気・科学・医薬品）**」「**IT・Web**」「**美容・理容業**」等を選択した学生から多く寄せられた。

その他意見として、「**車を持っていないと厳しいから**」といった**交通に関する理由**、「**映画館等がない**」といった**娯楽施設に関する理由**の回答が目立った。

1-5-2：将来養父市に住もうと思っている理由

上記の質問にて、「**住もうと思っている**」と回答した 103 名を対象に自由記述式で実施。最も多かったのは「**養父市が好きだから**」「**地域に貢献したいから**」といった**養父市への愛着に関する理由**で、全体の 30% 近くを占めた。

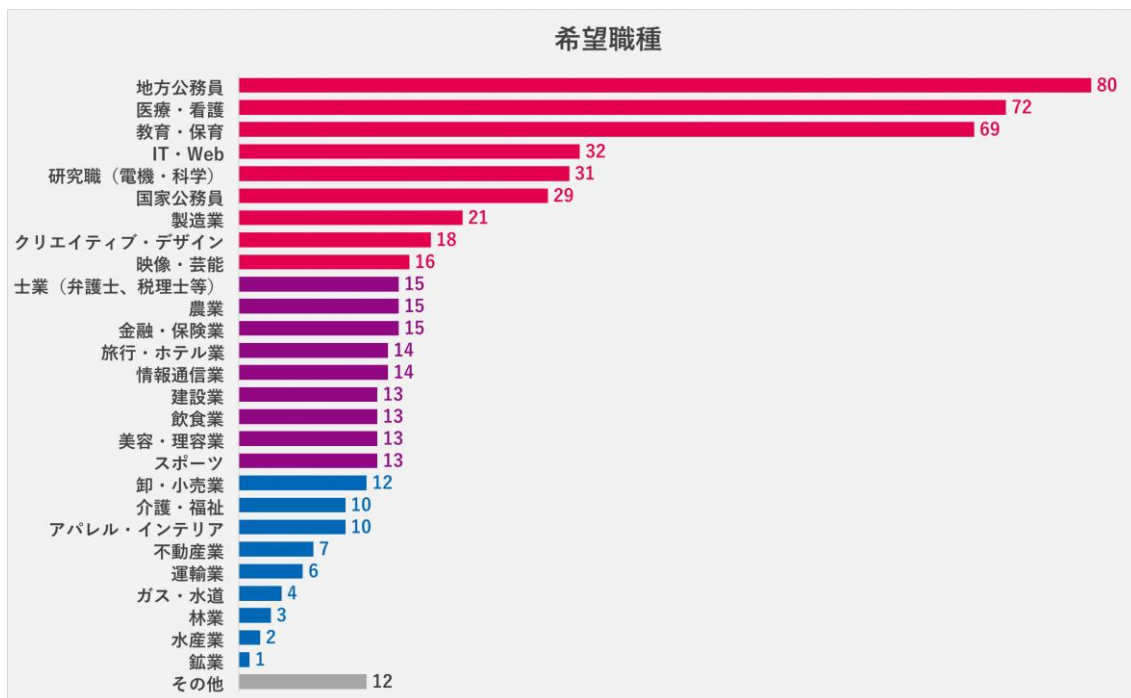
それと同程度の割合で「**地元で働く予定だから**」「**家（家業）を継ぐため**」といった**就職に関する理由**、「**自然が豊かで空気おいしい**」「**人の温かさ**」といった**周辺環境に関する理由**が挙げられ、これら 3 つの理由で**全体の 90% 以上**を占めた。

なお**就職に関する理由**を挙げた学生は、希望職種を「**医療・看護**」「**教育・保育**」「**地方公務員**」を挙げている学生がほとんどであったが、「**農業**」や「**建設業**」「**クリエイティブ・デザイン**」を挙げる学生も見受けられた。

1-6. 希望職種

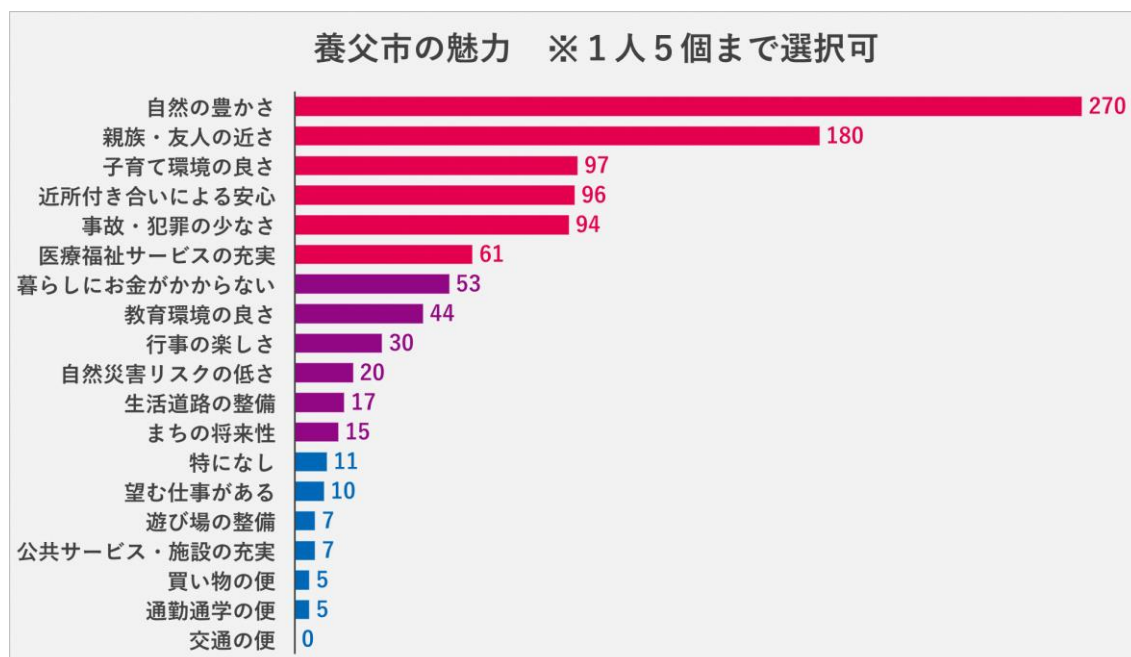
図の選択肢から複数回答可能制で実施。下記のような結果となった。「**地方公務員**」「**医療・看護**」「**教育・保育**」が飛び抜けて多い。これらは前問で**養父市に住みたい理由**として、**就職に関する理由**を回答した学生が多く挙げていた職種でもある。

いっぽう、「**IT・Web**」「**研究職（電気・科学）**」を挙げた学生も約 30 名ずつと多いが、これらは前問の**養父市に住もうと思っていない理由**で「**希望する職種がない**」と回答した学生に多く見られた希望職種でもある。そのため、学生の U・I ターンを促すために、地元企業の情報を積極的に発信していくことの必要性がうかがえる。結果グラフは次ページに記載。



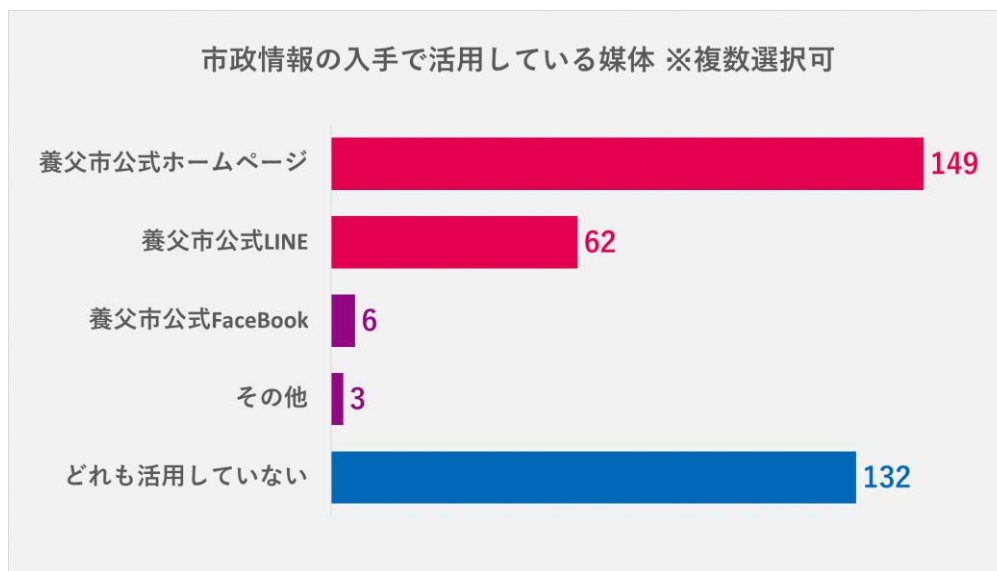
1-7. 養父市の魅力

最大5項目選択可能として実施。自然の豊かさが飛び抜けて多く、次いで親族・友人の近さや子育て環境、近所付き合いの良さなどに回答が集まった。すなわち学生は、養父市の「安心して暮らせる」点を魅力に感じているという傾向がうかがえる。



1-8. 市政情報の入手手段で活用している媒体

図の選択肢から複数選択可能制で実施。結果、活用している媒体として最も多く選ばれたのは養父市公式ホームページであり、次いで養父市公式 LINE であった。養父市公式ホームページを活用している学生は、どれも活用していない学生をわずかに上回った。



1-9. 扶養者（保護者）や後輩・地域の方へのメッセージ

必須回答とはせず、自由記述式で実施。結果 60 名からの回答があった。最も多く寄せられたのは、「いつもありがとう」「育ってきた街なのでいつか恩返しできるように頑張る」といった家族や友人・まちの人々への感謝の声であった。また、「特産品ありがとうございます!」「美味しくいただきます!元気が出ます!」といった、当事業を好意的に評価する声も多く寄せられた。ほかには、「都会に出て養父市の魅力、地元の魅力を知ることができました」「大学生になって旅行に行っても色々な楽しい思い出をつくったが、地元を好きな気持ちは変わらない」といった、養父市を離れてから感じたことについての声も寄せられた。

1-10. 養父市のまちづくり・市政に関する学生からの意見

必須回答とはせず、自由記述式で実施。結果 43 名からの回答があった。

学生からの意見としては、「書籍数を増やしてほしい」「YB ファブ食べ物のフェスや遊具の設置」「養父市にゆかりのある人との交流・講演会・支援事業」「ZEP に謎解き空間や、ミニゲームができる場所があると嬉しい」といった、各交流スペースの活用方法に関する声が多く寄せられた。

他には、「もっと児童や生徒と協力して企画してみたら面白い」といった学生と連携する

姿勢を求める声や、駅前再開発のように交通機関および周辺環境の整備を求める声も寄せられた。

なお一部からは、「保育料完全無料・高校生までの医療費無料化をしてほしい」といった、既に当市が実施している政策を希望する声も上がった。すなわち、養父市出身の学生や市民に対しても当市政策の認知度を向上させていく必要があると考える。

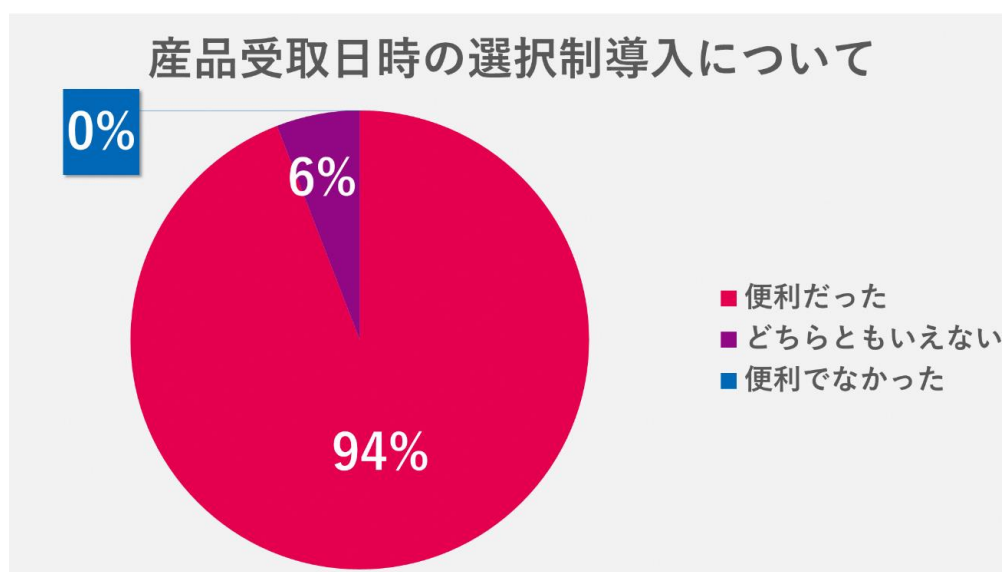
2. ふるさと産品給付事後評価アンケート実施結果

給付申請のあった学生に対し、給付後 1 か月後をめぐりに事後評価アンケートへの任意協力依頼をメールにて送付。結果は 34 名からの回答があった。下記はその結果である。

2-1. 受け取り日時選択制の導入に対する反応

今年度から、申請の段階で産品受取日を複数の候補日、時間帯のなかから選択できるようにした。その取り組みについて、94%（32 名）の学生が「便利だった」、6%（2 名）の学生が「どちらでもない」と回答し、「不便だった」と回答した学生はいなかった。

回答総数が 34 名（申請者総数の約 10%）である点は留意すべきだが、都合のよい日時に受け取れるようになった利便性を学生は概ね好意的に評価していることがうかがえる。



2-2. 産品への感想

今回送付した中から任意で選択してもらった産品について、自由記述式で感想を尋ねた。いずれの産品にも感想が寄せられ、34 名中、11 名の感想に「友人や家族とシェアして食べた」旨の記載があった。当事業が学生にとって、ふるさと養父市の魅力を再発見し、養父市を知らない友人にもふるさとの魅力を広める機会となったことがうかがえる。

2-3. 当事業への総合的な評価

当事業について、総合的な評価を5段階（最高…★5、最低…★1）で求め、理由を自由記述式で実施した。結果は★3が2名、★4が6名、★5が26名で、★1、★2評価の学生はいなかった。好意的に評価された点は、**無料で地元から特産品が届くことのありがたみや、米やレトルト食品が入っている一人暮らしに便利なラインナップ**などであった。いっぽう、令和6年度も当事業を実施する際には、**製品のバリエーション多様化や受取候補日の曜日設定**などが改善点として挙げられる。

3. 申請があった大学生等への情報発信

3-1. 発信内容

申請があった学生全員のメールアドレス宛への情報発信は、3月10日時点において3回である。次のような情報を発信した。

回数	内容
1回目	◆11月末時点のトピック発信 ①第10回やぶ医者大賞表彰式 ②今後のイベントについて …YBファブ映画祭り2023／せきのみや子ども歌舞伎／ 青柳いづみこ・大井駿コンサート／二十歳のつどい
2回目	◆就職説明会の情報発信 ①たじまオンライン合同企業説明会（リンク等記載） ◆市内就職施設の紹介 ①ハローワーク八鹿（公式ホームページリンク・問い合わせ先等記載） ②ジョブサポやぶ（問い合わせ先等記載）
3回目	◆養父市の能登半島被災地支援に向けた取組紹介 ①石川県珠洲市への移動式ランドリー車派遣 ②石川県珠洲市・志賀町への災害支援代理寄付受納（寄附リンク記載） ③市内公営住宅の提供

（以上）